

はつせのあさくらのみや あめ したをさ  
泊瀬朝倉宮に天の下治めたまふ大泊瀬幼

たけのすめらみこと おほみちた  
武天皇の御製歌一首

一六六四番

ゆふ 夕されば 小倉の山に 伏す鹿し 今夜は鳴かず  
寝ねにけらしも

をかもとのみや あめ したをさ  
岡本宮に天の下治めたまふ天皇の紀伊国に

いでま ととき うた  
幸す時の歌二首

一六六五番

いも 妹がため 我玉拾ふ 沖辺なる 玉寄せ持ち来  
おき しらなみ  
沖つ白波

一六六六番

あさぎり 朝霧に 濡れにし衣 干さずして ひとりか君  
やまぢこ  
が 山路越ゆらむ